

1971年 大会記録

国際

◇世界選手権（8月27日～9月5日、ブルガリア・ソフィア）

《フリースタイル》▼48kg級 梅田昭彦（米盛商事）＝4位、▼52kg級 加藤喜代美（三信電機）＝6位、▼57kg級 柳田英明（大都リッチランド）＝優勝、▼62kg級 阿部巨史（自衛隊）＝3位、▼68kg級 和田喜久夫（明大）＝5位、▼74kg級 永野要祐（和歌山県庁）＝三失、▼82kg級 佐々木龍雄（自衛隊）＝4位、▼90kg級 谷公市（和歌山県庁）＝6位、▼100kg級 矢田静雄（和歌山・粉河高教）＝四失、▼100kg以上級 鶴田友美（朝霞ク）＝二失

《グレコローマン》▼48kg級 松田敏夫（和歌山・和歌山北高教）＝三失、▼52kg級 平山紘一郎（自衛隊）＝三失、▼57kg級 七尾秀樹（自衛隊）＝四失、▼62kg級 藤本英男（日体大教）＝3位、▼68kg級 田上高（鹿児島・甲南高教）＝3位、▼74kg級 茂木優（国士館大）＝三失、▼82kg級 開健次郎（自衛隊）＝二失、▼90kg級＝派遣なし、▼100kg級 山口勇雄（自衛隊）＝三失、▼100kg以上級 鶴田友美（朝霞ク）＝二失

◇世界ジュニア選手権（5月1～6日、東京・代々木競技場第2体育館）

《フリースタイル》▼48kg級 松橋義行（青森・八戸電波高）＝優勝、▼52kg級 佐々木禎（日体大）＝3位、▼56kg級 大西寿信（青森・八戸工高）＝優勝、▼60kg級 上田保隆（静岡・修善寺工高）＝4位、▼65kg級 小笠原寛（青森・八戸工）、▼70kg級 弓指広久（鹿児島・鹿児島商工高）＝3位、▼75kg級 大宮年広（山形・山形商高）、▼81kg級 下野（富山・滑川高）、▼87kg級 吉田幸雄（青森・八戸工）、▼87kg以上級 三浦憲昭（北海道・札幌一高）

《グレコローマン》▼48kg級 中谷雅夫（富山・高岡商高）＝2位、▼52kg級 萩原進（アイシン精機）＝3位、▼56kg級 太田利光（青森・光星学院高）＝2位、▼60kg級 中山友義（静岡・稲取高）＝三失、▼65kg級 菅原陵治（秋田・五城目高）＝3位、▼70kg級 小笠原勝（青森・光星学院高）＝3位、▼75kg級 大野治（兵庫・育英高）＝二失、▼81kg級 阪中幸雄（専大）＝三失、▼87kg級 佐藤晃司（群馬・館林高）＝3位、▼87kg以上級 松永清志（山口・桜ヶ丘高）＝二失

国内

◇世界ジュニア選手権選考会（4月1～4日、東京・青山レスリング会館）

《グレコローマン》▼48kg級 中谷雅夫（富山・高岡商高）、▼52kg級 萩原進（三重・松阪工高）、▼56kg級 太田利光（青森・光星学院高）、▼60kg級 中山友義（静岡・稲取高）、▼65kg級 菅原陵治（秋田・五城目高）、▼70kg級 小笠原勝（青森・光星学院高）、▼75kg級 大野治（兵庫・育英高）、▼81kg級 阪中幸雄（専大）、▼87kg級 吉田（青森・八戸高）、▼87kg以上級 松永清志（山口・桜ヶ丘高）

《フリースタイル》▼48kg級 松橋義行（青森・八戸電波高）、▼52kg級 佐々木禎（日体大）、▼56kg級 大西寿信（青森・八戸工高）、▼60kg級 上田保隆（静岡・修善寺工高）、▼65kg級 小笠原寛（青森・八戸工）、▼70kg級 弓指広久（鹿児島・鹿児島商工高）、▼75kg級 大宮年広（山形・山形商高）、▼81kg級 下野正人（富山・滑川高）、▼87kg級 吉田幸雄（青森・八戸工）、▼87kg以上級 三浦憲昭（北海道・札幌一高）

◇全国高校選抜大会（4月11日、新潟・新潟商高）

《学校対抗戦》①青森・八戸工（2年連続2度目）、②秋田・五城目、③新潟・新潟工、宮城・仙台育英

◇東日本学生リーグ戦（5月19～21日、東京・早大記念堂）

《順位》①日体大（初）、②国士大

（A組順位）①日体大、②専大、③日大、④明大、⑤拓大、⑥東北学院大

（B組順位）①国士大、②中大、③大東大、④早大、⑤東洋大、⑥法大

◇西日本学生春季リーグ戦（5月28～30日、桃山学院大）

《順位》[1] 同志社大（15季ぶり2度目）、[2] 近大、[3] 福岡大、[4] 中京大、[5] 関大、[6] 関学大

◇全日本社会人選手権（6月4～6日、東京・青少年総合センター）

《実業団対抗戦優勝》アイシン精機、《クラブ対抗戦優勝》斉藤健治道場、《官公庁対抗戦優勝》和歌山県教員

《フリースタイル優勝者》▼48kg級 梅田昭彦（米盛商事）、▼52kg級 石田和春（小玉合名）、▼57kg級 加藤光利（米盛商事）、▼62kg級 菅芳松（国分自衛隊）、▼68kg級 林富夫（和歌山ク）、▼74kg級 河内政彦（アイシン精機）、▼82kg級 伊藤勝春（京浜土地）、▼90kg級 日比野喜代治（自衛隊）、▼100kg級 一戸隆男（育映管財）、▼100kg以上級＝出場なし

《グレコローマン優勝者》▼48kg級 留岡正明（自衛隊）、▼52kg級 石和和春（小玉合名）、▼57kg級 沢内和興（斎藤道場）、▼62kg級 大館利美（斎藤道場）、▼68kg級 荒川明夫（自衛隊）、▼74kg級 阿倍安雄（東京カローラ）、▼82kg級 伊藤勝春（京浜土地）、▼90kg級 三戸豊治（警視庁）、▼100kg級 山口勇雄（自衛隊）、▼100kg以上級＝出場なし

◇東日本学生春季新人戦（6月17～19日、東京・世田谷区総合体育館）

《フリースタイル優勝者》▼48kg級 大貫進（東洋大）、▼52kg級 荻場勇光（専大）、▼57kg級 中村（明大）、▼62kg級 榎本薫（専大）、▼68kg級 上東正（日体大）、▼74kg級 伊達治一郎（国士舘大）、▼82kg級 茂木優（国士舘大）、▼90kg級 吉田光雄（専大）、▼90kg以上級 茂木孝夫（専大）

《グレコローマン優勝者》▼48kg級 関（法大）、▼52kg級 宇野勝彦（日体大）、▼57kg級 吉田（専大）、▼62kg級 小畑（東北学院大）、▼68kg級 七尾（国士舘大）、▼74kg級 正木宏之（日体大）、▼82kg級 吉永文夫（日体大）、▼82kg以上級 吉田光雄（専大）

◇全日本選手権（6月21～23日、東京・日大講堂）

《フリースタイル優勝者》▼48kg級 梅田昭彦（米盛商事）、▼52kg級 加藤喜代美（三信電気）、▼57kg級 柳田英明（大都リッチランド）、▼62kg級 阿部巨史（自衛隊）、▼68kg級 田上高（鹿児島・甲南高教）、▼74kg級 永野要祐（和歌山県教育庁）、▼82kg級 佐々木竜雄（自衛隊）、▼90kg級 谷公市（和歌山県教育庁）、▼100kg級 矢田静雄（和歌山・粉河高教）、▼100kg以上級 鶴田友美（中大）

《グレコローマン優勝者》▼48kg級 松田敏夫（和歌山・和歌山北高教）、▼52kg級 平山紘一郎（自衛隊）、▼57kg級 七尾秀樹（自衛隊）、▼62kg級 藤本英男（日体大教）、▼68kg級 田上高（鹿児島・甲南高教）、▼74kg級 岡唯勝（徳島・池田高教）、▼82kg級 茂木優（国士大）、▼90kg級 谷公市（和歌山県教育庁）、▼100kg級 矢田静雄（和歌山・粉河高教）、▼100kg以上級 鶴田友美（中大）

◇西日本学生選手権（6月26～27日、大阪・桃山学院大）

《フリースタイル優勝者》▼48kg級 江里口正（福岡大）、▼52kg級 長尾勇（同志社大）、▼57kg級 曾和政人（近大）、▼62kg級 畦池雅志（名城大）、▼68kg級 山田紳一（関大）、▼74kg級 斐根杓（近大）、▼82kg級 平松清志（関学大）、▼90kg級 松田高邦（桃山学院大）

《グレコローマン優勝者》▼48kg級 辻中貢(同志社大)、▼52kg級 小崎光也(近大)、▼57kg級 曾和政人(近大)、▼62kg級 高木茂(同志社大)、▼68kg級 角田純一(同志社大)、▼74kg級 山田紳一(関大)、▼82kg級 松田高邦(桃山学院大)

◇インターハイ(8月2～5日、徳島・池田高)

《学校対抗戦》[1] 青森・光星学院(初)、[2] 青森・八戸工、[3] 宮城・仙台育英、鹿児島・鹿児島商工

《個人戦優勝者》▼48kg級 干田茂(鹿児島・鹿児島商工)、▼52kg級 江藤正基(鹿児島・鹿児島商工)、▼56kg級 金子博(群馬・館林)、▼60kg級 我如古和徳(愛知・名商大付)、▼65kg級 庄司秀一(宮城・仙台育英)、▼70kg級 弓指広久(鹿児島・鹿児島商工)、▼75kg級 小柳美代志(秋田・秋田商)、▼75kg以上級 吉田幸雄(青森・八戸工)

◇全日本学生選手権(9月2～4、東京・駒沢体育館)

《フリースタイル優勝者》▼48kg級 斉藤喜慶(明大)、▼52kg級 渥美紋範(日大)、▼57kg級 荒井政雄(国士舘大)、▼62kg級 宮原章(明大)、▼68kg級 佐藤勝(慶大)、▼74kg級 長谷川恒夫(早大)、▼82kg級 安部段一(日大)、▼90kg級 佐藤貞雄(大東大)、▼90kg以上級 熊坂勇一(明大)

《グレコローマン優勝者》▼48kg級 高村勝義(拓大)、▼52kg級 宇野勝彦(日体大)、▼57kg級 山田敏夫(法大)、▼62kg級 宮原照彦(日体大)、▼68kg級 日置隆丸(青山学院大)、▼74kg級 伊達治一郎(国士舘大)、▼82kg級 斎藤真(日体大)、▼90kg級 吉田光雄(専大)、▼90kg以上級 磯貝頼秀(早大)

◇全日本学生王座決定戦(10月16～17日、)=決勝成績

日大○ [5-4] ●専大

※日大は2年ぶり7度目の優勝

◇国体(10月24～27日、和歌山・粉河町立体育館)

《一般フリースタイル優勝者》▼48kg級 石橋孝(埼玉)、▼52kg級 渥美敏範(宮城)、▼57kg級 加藤光利(鹿児島)、▼62kg級 阿部巨史(埼玉)、▼68kg級 和田喜久雄(新潟)、▼74kg級 吉田敏忠(愛知)、▼82kg級 茂木優(秋田)、▼90kg級 谷公市(和歌山)、▼100kg級 矢田静雄(和歌山)、▼100kg以上級 磯貝頼秀(千葉)

《一般グレコローマン優勝者》▼48kg級 松田敏夫(和歌山)、▼52kg級 平山紘一郎

(鹿児島)、▼57kg級、▼62kg級 大石八郎(東京)、▼68kg級 田上高(鹿児島)、▼74kg級 岡唯勝(徳島)、▼82kg級 開健次郎(埼玉)、▼90kg級 斎藤真(山形)、▼100kg級 波山竜美(岐阜)、▼100kg以上級 鶴田友美(埼玉)

《高校フリースタイル優勝者》▼48kg級 平田茂(鹿児島・鹿児島商工)、▼52kg級 有村隆幸(鹿児島・加世田農)、▼56kg級 金子博(群馬・館林)、▼60kg級 我如古和徳(愛知・名商大付)、▼65kg級 伊藤文雄(岩手・宮古商)、▼70kg級 菅原陵治(秋田・五城目)、▼75kg級 小柳美代志(秋田・秋田商)、▼81kg級 菅原伸義(秋田・秋田工)、▼87kg級 丸山博之(栃木・足利工大付)、▼87kg以上級 清水一夫(岡山・岡山日大)

《高校グレコローマン優勝者》▼48kg級 長谷川芳彦(石川・星稜)、▼52kg級 京田修(富山・高岡商)、▼56kg級 佐藤公一(北海道・美深)、▼60kg級 岡部高明(神奈川・柏陽)、▼65kg級 小泉清一(青森・光星学院)、▼70kg級 横山勝幸(青森・光星学院)、▼75kg級 平田義郎(鹿児島・鹿児島商工)、▼81kg級 柴田栄(青森・八戸工)、▼87kg級 吉田幸雄(青森・八戸工)、▼87kg以上級 佐藤晃司(群馬・館林)

◇東日本学生秋季新人戦(11月4～6日、東京・世田谷区総合体育館)

《フリースタイル優勝者》▼48kg級 高村勝義(拓大)、▼52kg級 下田和弘(拓大)、▼57kg級 吉田栄勝(専大)、▼62kg級 小西弘幸(専大)、▼68kg級 七尾英敏(国士舘大)、▼74kg級 伊藤良和(専大)、▼82kg級 伊達治一郎(国士舘大)、▼90kg級 茂木優(国士舘大)、▼90kg以上級 小林孝男(関東学院大)

《グレコローマン優勝者》▼48kg級 諸岡稔(日体大)、▼52kg級 糸数昌一(国士舘大)、▼57kg級 田中修(日体大)、▼62kg級 小笠原要助(専大)、▼68kg級 遠塚谷淡(日大)、▼74kg級 伊藤良和(専大)、▼82kg級 米山守(大東大)、▼82kg以上級 藤田芳弘(国士舘大)

◇西日本学生秋季リーグ戦(11月19～21日、桃山学院大)

《順位》[1] 同志社大(2季連続3度目)、[2] 福岡大、[3] 近大、[4] 関大、[5] 中京大、[6] 名城大